ケンとマヤは，小学　５年生の幼　なじみ。ケンタは何にでも興味をもってしまう男の子。マヤは，ケンの暴走をおさえる慎重派で思慮深い女　の子。

そんなある日，２人は学校で出された宿題　の調べ物をしに図書館へ向かいました。図書館へ着くと，案の定　ケンはまっすぐに自分の興味のある昆虫図鑑　のある場所へ行ってしまいます。それを追ってマヤが声をかけました。

「今日は，宿題　の調べ物をしにきたのよ。」

「そんなのは，この本を見てからでもできるよ。それより見てごらん。たくさんの虫がのっているよ。ほら，この蝶　，とってもきれいだと思わない。」

マヤの目の前に昆虫図鑑　の本を広げて見せています。たしかに，カブトムシなどケンの好きそうな昆虫　もいれば，きれいな蝶　ののったページもあります。思わず蝶　のページのところでマヤは声をあげてしまいました。

「うわぁ，大きくてきれいな蝶　ね。こんな蝶　にのって空を飛ぶことができたらどんな気分なのでしょうね。」

するとその声に反応するかのように，本の中の蝶　の羽が動いたのです。

「ねぇ，ケン見た。」

「見たよ。蝶　の羽が動いたよね・・・。」

その時です。２人の目の前がグニャッとゆがんだかと思うと

「うわぁ～。」

２人の体　は本の中へ引き込まれていきました。

「うわぁ～。」